

# 教化センターだより

平成19年4月 第23号

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター

〒722-0033 尾道市東土堂町17-29天寧寺内

TEL.0848-25-2855

FAX.0848-25-4148

心の電話：0848-25-2860

HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷/(有)メディアーツ TEL.0848-62-2223

## 平成十九年度 布教教化に関する生論

今、情報化社会の中で、世界の各地からさまざまな声が届いてきます。その声は、優しく温かみのあるものより、不安と不信に満ちたものが、より多くなっています。その声に、私たちはどう応えたらよいのでしょうか。

世界各地で起きている争いのために、何物にも代えがたい尊い生命が失われ、心がおびえ、冷えきってしまった人びとが大勢います。

国内に目を向けると、お金や物はかりが優先され、人や自然への慈しみの心を軽んじ、本来安らぎの場であるべき家庭や学校までが、危機にさらされています。

なぜ人は、「いのち」の尊さや、人とのかわりあいの大切さを見失い、他を思いやる心をなくしてしまったのでしょうか。

このような時代だからこそ、曹洞宗は信仰生活の実践目標を「同事行」と定め、「入権・平和・環境」の大切さを説き続けています。

『修証義』に「人間の如来は人間に同ぜるがごとし」とあります。

人間であられたお釈迦さまだからこそ、私たちの悩み苦しみを、ご自身のこととして、慈愛の手をさしのべられ、私たちを導いてくださるのです。

お釈迦さまの慈悲の心に目覚め、「南無釈迦牟尼仏」ととなえつつ、家庭、学校、そして社会で、お互いに思いやり、限りなく慈しみ合う心を、いつぱいにするように、努めてまいりましょう。

## 平成十九年度 布教教化方針

我が宗門の布教教化は、正法の興隆と曹洞禅の宣揚を願い、人びとを心の不安や苦悩から救済し、正しい信仰生活を確立することが本旨です。混迷する社会の中にあつて、強い信念と行動力をもって、人権の擁護・平和の維持・環境の保全を實踐していかなければならないのです。

その実践を推進していくために、本年度も「同事行」を提起し、多くの人びとと和合して、み仏の絆を深めることを願い、次の如く布教教化方針を定めました。

一、仏法僧の三宝に帰依し、「一仏両祖」を奉祀して、正しい信仰心を育ていかなければなりません。そのために、参禅会・授戒会・梅花講・国際布教をはじめとする各種の布教教化活動の中で、「南無釈迦牟尼仏」のおとなえと、両祖様の教えの普及に努めます。

二、この世に存在するすべてのものは、相互に支え合い、助け合って生きてい

るのです。經典には、「衆生病むがゆえにわれ病む」と示されています。「いのち」を尊ぶために、常に同悲・同苦の心を持ち続けなければなりません。

部落差別・人種差別・性差別など、あらゆる差別を解消するために、人権啓発活動に取り組みます。

また、脳死、臓器移植、クローン技術の進歩がもたらした諸問題、さらには、現代の社会に広がりつつある生命軽視の風潮など、「いのち」の尊厳のありようが問われています。宗教者として、これらの現代的課題に取り組みます。

三、国の内外で起こる暴力・いじめ・貧困・抑圧にさらされている人びとを思う時、宗教者として、人の心の安寧と、社会の平和が続くことを願い、戦争の愚かさや平和の大切さを訴えなければなりません。

そのために、ボランティア活動などに積極的に参加し、共に喜びを分かち合える平和な社会の実現を目指します。

四、人間をはじめ、すべての生けるものを支えてきたのが、地球環境です。

私たちは文明の発展とともに、自然を破壊し、環境を汚染してきたことを反省しなければなりません。

そのために、地球環境を護り、自然と共に生きていくための「グリーン・プラン」運動を継続し、日常生活の中で、できることから、改善の努力を積み重ねていきます。

# 管区長退任挨拶

●前広島県宗務所長 鈴木 章純



昨年十二月に管区長を退任致しました。遅ればせながら一言ご挨拶を兼ね御礼を申し上げます。

管内御寺院の諸老師方には、益々ご清祥にてお過ごししの御事とお慶び申し上げます。在任中はご法愛ご指導を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

任期中の二年間を振り返りますと、定例の管区行事は例年通り各宗務所と教化センターのご協力を頂きながら催行致し、無事に終えることが出来ました。ただ、管区集会は開催方法の検討期間として

一年休会され、二年に一度の開催と変更されました。平成十七年の岡山会場が変更後初めての開催でございましたが、結局は従来の開催内容と殆ど変わることなく、参加されました方々には物足りない思いが残られたことと思えます。今後も宗務当局と意見交換をされ、活発で有意義な会となることを念じます。

また、二年間で一番残念な事は多々良学園の消滅でした。宗侶養成学校として伝統も古く、特に管内には多くの卒業生もおられます。全面移転により躍進するかに見えた矢先の、あつけない結末でした。移転計画自体に無理があつたことは明らかです。曹洞宗としても複数の訴訟を受けて立たねばならず、原因の解明や責任所在の追求も早急には出来ない状態です。幸いに昨年は宗議会議員の改

選もあり、何か変革が期待できる手応えも感じられます。管区長会議や宗務所長会議も宗務当局に対し、以前より活発に意見要望を出しております。一刻も早い解決と、債権者や一般社会に対する信用回復がなされますよう願っております。

教化センターは宗門の布教化の専門拠点です。宗務所や教区単位では出来ないような新たな企画も望まれますし、将来の社会情勢を予測した活動も取り入れて欲しいと思えます。

最近では、他宗派や教団はマスコミの力を上手に利用しておりまして。テレビやラジオをつけており、然に目や耳に入ってきて来ます。最大の教団といわれる曹洞宗は、一般大衆には余り知られていないような気が致してなりません。素晴らしい宗派であり、尊い教えがあることを大いに広めて頂きたいと思



います。新管区長土本祥善老師は、宗務行政担当の大ベテランでおられます。管区にも新たな風を起こして下さるかも知れません。ご期待申し上げます。最後にになりましたが、お世話になりましたお役職の皆様方、いろんな行事でご縁を結ばせて頂きました多くの宗侶の皆様方に重ねて御礼を申し上げます、退任のご挨拶とさせていただきます。

# 管区長就任挨拶

●岡山県宗務所長 土本 祥喜



今冬は暖かい日々の多いことであつたが、半面雪不足であつて…といわれるところもあるようであつた。暖冬の裏がこなければよいと心配と祈りの気持ちでもあります。

この度、鈴木老師が任期満了で勇退され後任として、不肖私儀不徳の身を顧みず輪番とは申せ管区長の重責を担う事となりました。

ここに前管区長鈴木章純老師を始め役員の皆様には、管区諸々の行事を誠実円滑に遂行されました労苦に深甚なるご慰労申し上げます。

ます。

さて管区の諸行事の中で管区護持会集会(管区集会)は、本年度は岡山県で開催の予定であります。特にこの会のあり方、内容につきまして関係方々のご意見、要望をもってより意義深い集会にしたいものと考えております。又その他諸行事もあわせて発展的見直しをしつつ、今後、管区としての役割は地域とのつながりを深めていきたいと思えます。

昨今は、いじめ、虐待、凄惨な虐極まる殺人、自ら命を絶つなど痛ましい事件等が報道されています。

人々は「命」に対するとらえ方がさまざまであります。仏さまに向かつて手を合わせた人の「命」と、そうでない人の「命」に対するとらえ方は違っているのではないのでしょうか。

昨年は世相を現す漢字が「命」でした。改めて命の尊さ、重さを痛感せずにはいられません。ここで私達宗侶として歯止めとなる「二助」をしなければならぬとの思いをもつところであります。現総長老師が「深めようみ仏の絆を」と示されましたが、真に私も教化者として心に抱いて檀信徒を始め多くの方々への布教実践をしなければ…と思うのであります。

どうかいろいろ申し述べました新管区といたし非力ながら管区行政の充実に向上のため役員一同専一に鋭意努力する所存でございます。

何卒、管内宗務所役員・管区教化センター役員・管内各寺院諸老師のお力添え賜ります様お願い申し上げます、就任にあたりご挨拶とさせていただきます。

合掌





### 「法話集」刊行

長らく

お待たせ致しました。

当センター開所三十周年の記念事業として、運営企画委員会で取り上げていただいてより存外に月日を重ねました。

折角にご寄稿の原稿は全部センターで目を通し、句読点や送り仮名等をチェックし揃えました。文章は、余程の個所については修正をねがいましたが、ほとんど地方色を生かすということも含めてそ

のままを初稿刷りにかけ、本庁教化部に送りご指導を待ったのであります。六十三師からのご法話は、二百五十余頁に及びます。順番待ちにしびれを切らし本庁に伺いましたその時、教化部と人権本部に山積される書類・文章等の目通しと諸研修に多忙を極めておられる様子に、いま法話集等の作成がいかに大変かがやつと分かりました。

随分お待たせしましたが、教化部人権本部の綿密なご指導によりまして、全国に通用する「法話集」が出来上がりました。

この間に、諸師の貴稿に注文をつけました添えを入れて、ご不快な思いをおかけ致しました。法話を文章にすることは、厳しい心労を要するものです。お届けする法話集は、どなたにも活用していただける、言わば玉石混交の希書であり玉も石も布教者の杖と小職

はいただいております。玉は、石が磨かれて玉となりました。どうか、玉の師は石の師の初念をなつかしんで育てていただき、石の師は玉の師の姿をよく見て咀嚼していただきたい、感が道交すれば必ず玉が表れます。

弁道話に「人みな般若の正種ゆたかなり」との御示しがございませう。

この世には衆生済度誓願のお寺さんは不在なのかと、一般大衆の方々は勝友を探しておられるのです。人々の正種発芽に、誰が陽となり雨となるのですか。

※ ※ ※ ※ ※ ※

『味噌・醤油づくりの工程は簡単に見えるが、どうしてどうして奥が深いのです。』

何しろ大豆をはじめ原料は、みんな生きていけるのです、温寒

の一度の差も手抜きが出来ません。さらに味噌・醤油は毎日口にするものです。味が変だとかこれは大丈夫かな、というような不安が出ますと、もう店の信用は失墜してしまいます。

この家業を守る方々は、毎日のように努めてお客の声を聞き、苦情も聞きまた難しい注文も聞くのです。その時決して「ちよろみつ」（その場限りの言い訳）を言わないのです。』

小職は、この話しに痛く反省を抱く一人であります。

過年度は、種々ご道情をたまわりました。今年度もまたよろしく御願い申し上げます。

深謝拝上



### 岡山県宗務所だより

#### 平成十八年度活動報告

◎教化主事 山本 道雄

《護持会》

宗門護持会鐘ヶ江管一會長の来岡を得て総会開催。講演では普賢岳噴火の際の体験談に責任者としてのあるべき姿を学びました。

《婦人会》

五月二十日、百七十二名の参加を得て総会を開催しました。管区教化センター村上邦雄主監より法話をいただきました。

《寺族会》

六月二十三日、総会開催。兵庫県立大学岡田眞美子先生の「もったいないと、ものいのち」と題して講演していただきました。

《夏休み親子参禅の旅》

八月二十四・二十五日、愛媛県瑞応寺で参禅しました。この行事は布教委員がもつとも力を入れていますが、少子化もともない毎年参加者募集には苦慮しています。

《人権学習会》

十一月九日、劇団希望舞台による「釈迦内枢唄」観劇会を開催しました。

《梅花》

『宗務所検定会』では二十三講から百八人の受験者がありました。今年秋に管区集會を予定しています。温かいご指導とご協力をお願いいたします。



### 広島県宗務所だより

#### 行事の活動報告

◎教化主事 稲角 道雄

《人権学習・現職研修》

九月十日・十二日の予定で人権主事老師の人権学習、佐々木閑先生の現職研修の講義。ここ数年参加者が増えています。研修の内容で頭を痛めます。十九年度は、十一月十九日・二十日で開催予定。

《檀信徒本山研修会》

十月二十三日より約百四十名の団参で、大本山永平寺に参籠し、下山後はアルペンルートにて研修。十九年度は、十月二十九日より大本山總持寺にて研修予定。

《檀信徒地方研修会》

十月十六・十七日と広島聖光寺、庄原世尊寺を会場として、青山俊董老師の講話、ビデオの人権学習を両会場で三百余名の檀信徒が研修。十九年度は、新装なる三原文化会館（仮称）にて本庁主催の「禅をきく会」並びに檀信徒地方研修会を開催予定。

《梅花》

札幌での全国大会には、約九十名の講員が参加。県大会は七月二日竹原市に於いて開催し講員六百余名参加。二月には尾道市に於いて一泊二日の研修会を開催、出席者多数。

《寺族会》

六月十七日の総会、秋季研修会は、十月十日庄原万福寺を会場に大興寺久河道明老師の「お袈裟について」の法話。

《インド仏跡巡拝》

一月二十二日～二月一日まで、団員十七名にて無事四大仏跡等巡拝。

### 山口県宗務所だより

◎人権擁護推進主事 山本 昌男

昨年十一月八日、山口同宗連（山口県人権・同和問題に取り組む宗教者連帯会議）の結成二十周年記念大会が、山口南総合センター（山口市）に於いて開催されました。

山口同宗連では、その議長職を曹洞宗が引き受け致しております関係もあり、当宗務所内の人権擁護推進委員さんを通し、宗門関係者一〇〇名を超えるご参加を賜り、全体では予定数の四〇〇名を超える盛大な大会となりました。

特に劇団「希望舞台」による「釈迦内枢唄」の上演は、参加者の方々の反響を呼び、心の中に「生きることの喜びと大切さ、差別心の愚かさ」と無意味さ。」が伝わったのではないかと思います。

既にご承知のごとく曹洞宗は、「人権・平和・環境」という三つのテーマのもと布教を展開致しておりますが、「人権」という問題は曹洞宗のみならず、多くの宗教団体が解決すべき問題として現在真摯に取り組んでいるところでございます。

私どもも、いち個人ではなかなか前に進めない取り組みも、宗門の仲間と共に、また同宗連という多くの仲間と共に、宗教者として・宗門檀信徒として、いかに有るべきかを互いに見つめ励ましなが、当宗務所に於いては進めていきたいと思っております。

◎教化主事 柿本 弘道

十八年度も例年どおりの行事を実施いたしております。その中で特記する行事としては、

○宗務所／檀信徒地方研修会  
十月十六日、鳥取市の鳥取市民会館を会場に、仏教講演会『極楽はどこにあるの』と題して、元曹洞宗管長・板橋興宗禅師を講師にお招きし、檀信徒の皆様五六〇名に聴講していただきました。

○第二十九回中国曹洞宗青年会鳥取大会  
(主催は曹洞宗鳥取青年会です)

十一月二十一日・二十二日、米子市皆生温泉を会場に『寺院の将来はどうなる？今、再生をかけて』と題して、慶應義塾大学教授の中島隆信先生に、『経済学的視点からみたお寺の将来像』。月間「仏事」副編集長の薄井秀夫先生に、「お寺はどこへ行くー仏教が目指すお寺、社会が求めるお寺ー」という演題でそれぞれ講演をいただき、管区青年会員をはじめ、宗門寺院・寺族・他宗派寺院関係者など百人を超える方が参加して開催されました。

二つの大会を通じて、現代社会における布教活動の大切さ、社会に求められる寺院の役割など、改めて痛感致しまし。



週一行修一行

◎教化主事 和田 善明

昨年十二月、宗務所長の交代に伴い、新しい役員が決まりました。旧役員の方々の功労に感謝するとともに、新役員一同、力を合わせて宗務所運営をしていきたいと思っております。

平成十八年度は、青少年教化指導者研修会、センター布教協議会・講習会が当宗務所内で開催されました。管区内から熱心な参加ありがとうございました。

平成十九年度は、曹洞宗婦人会中国管区研修会が、秋に益田市で開かれる予定です。二十年二月には管区主催の「禅をきく会」が開催されます。大勢の方に参加いただくことを願っています。

宗務所行事は例年通りのものです。六月の本山研修会、特派巡回布教。秋の人権研修、現職研修、檀信徒研修会、寺族研修会、梅花特派巡回講習。冬には、島根県布教講習会、梅花奉詠大会が行われます。

一つ一つの出会いにおいて、一つ一つの修行を重ね、研修教化が充実することを念じ、諸行事が円滑に進むよう努めて参ります。今後とも、御指導御助力をよろしくお願い申し上げます。



宗務所会館の落慶

◎教化主事 堀江 晴俊

島根県第二宗務所に於いては、平成十八年七月に長年の念願でありました宗務所会館の落慶式を無事行う事が出来ました。

宗務所会館の建設に当たっては、長年当宗務所の懸案であり、管内の寺院はじめ護持会の皆さんと共に建設委員会を立ち上げて以来、建設候補地の選定や資金計画などについて幾度となく会合を持ち、施設本体の詳細な設計についても、多くの皆さんのご意見を伺いながら建設に至りました。

当会館は一部二階建てで、一階には法要並びに各種の研修会を開催出来るようにと研修室(法堂)や和室を備え、二階部分には宗務所の事務所があります。特に館内はエレベーターを備えたバリアフリー化や、法堂には最新の音響設備と電動スクリーンやビデオプロジェクターを設置して、多用途の研修及び会議にも対応出来るように配慮しました。

開館して早々に宗務所の諸会議や檀信徒護持会及び寺族会や婦人会の研修など多くの方々にご利用をさせていただくと共に、当宗務所の布教教化のセンターとしての役割も大きくなり、現在宗教法人の設立には多くの難関が控えています。法関を指して努力を致しております。

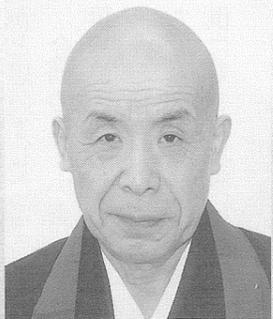


紙上法話

無上を行わず

センター布教師 安養寺

渡辺 勝人



文才が無い故、文章の作法も成っていない。いい年齢をして、後輩から冷やかされない様にとかで、いよいよこちなくなってしまう。

沢木老師・内山老師の提唱の御本を拝読致しますうちに、卒論ではありませんが、丸写しをしたくなります。日頃無精してしまっている。やれと言われて仕方無しに行持をやる。

こう言うことでは全く申し訳無いのに、のらりくらりが関の山である。理屈より、事実が先だ。恰好はどうでもよいのである。

昨年末、上京のついで、歌舞伎座で観劇をして、久し振りに堪能しました。

菊之助主演の幕物で女形であった。背は高いし、美男ではあるし、いずれ将来をしょって立つ、大看板になるであろう。大変なものも思いました。科白・所作大変である。五つ六つからの稽古の賜である。私はお寺でよかったですと思う。

まさに人間国宝の称号を授与させてあげたい気持ちになります。役者は大変である。

思っておせば、私の駒大の入学は昭和三十一年であります。

その頃の歌舞伎界は、彼の祖父達が第一線であられたろう。つまり梅幸さん、十七世羽左エ門さん、十一代団十郎さんとか、また先代三津五郎さん、同じく左団次さんと錚々たる顔ぶれでしたと言いますのは、田舎では見られ無いものに関心が湧き、無踊「流星」と言うのを、十七世と現富十郎が見たのを見て病みつきになりました。金は無いの学生生活の中で、幕見が一生懸命でした。先代の金馬さ

ん、人形の文五郎、能の喜多実の半蔵、玉川勝太郎天保水滸伝等々、本家の仏教学専攻は、怠り勝ちすぎました。そんな時でした。

上野不忍池畔、総松造りのお屋敷で、横山の表札、日本画壇の雄・大観画伯のお住居、すごいと思いました。目をみはりました。それが、今回観劇の途次、往古の建物は一般者への展示会場として、入館出来るようになっていましたが、当時の面影は遠く霞むに似て廃屋に近いと申しては失礼ですが、第一回文化勲章の覇者であられた生家の保存を国なり都は、何かの援助の手を述べられておるのでしょうか。とても淋しく感じました。

それに比べましてすごいのが、羽左エ門さんのところである。橘屋一門である。子福者で賑やかなのであります。当時、羽左エ門さんは、他の方々に比べると榮譽にほど遠い人のようでした。

しかし、ここで辛抱をされたのでした。そして足を地につけて、芸道に精進鍛錬し、後生の為の基本を残したと評されたのであります。天は助くるではありませんが、先代の忍耐と言う宝物が花開いたのであります。

私も一代の禪僧興道老師、樽林、酒井、鈴木、大久保道舟各先生に幸せにも警咳に接し、ご指導賜り最高でした。その示されたところのものを的確に把握し、実践し生活して行かねばならない。有為天変は常の事、益々坐禅の実践が、日常茶飯化して行かねばなりません。



# 第22回子ども禅インサマーセミナー in 出雲

平成十八年七月二十六日(水)～二十八日(金)

講師 大田 大穰 老師

参加総数 四十五名

## 子ども禅インサマーセミナー

指導員 中島万智子

みなさん、お元気ですか。元気のいい、明るい二班の子供達とお別れをしたのも、ついこの前のような気がします。

私は、このセミナーに、たまたま知り合いの誘いで、参加する事になりました。なんだか面白そうなる事ができそうだなと思い、二つ返事で「行く、行く！」と言ったのがきっかけでした。

私は、もともと会社員だったため、子供と接する機会がなく、子供達にどう接していいのかわからず、初めは不安でいっぱいでした。でも、元気もよく、素直な子供に出会い、その不安はかき消されま

二班のメンバーと初めて会い、班のみんなと自己紹介をし、目標をたてました。その時この子たちのレベルの高さを感じました。目標を何にしようかとみんなに聞く時、手を挙げて、「一年生がいて、さつきも一人遅れてくることがあったので、みんなで助け合って行動するというのはどうかな？」というのです。まだ、みんなに会って間もないのに、これだけの事を感じ、みんなの前で言えるという



ことに驚かされました。また、「靴はそろえて上がろうね。」と一言言うと、みんなすぐに靴を揃え、それ以降、靴やスリッパはいつみても揃っていました。一度言った事はきちんと守っていました。

セミナーを通して感じたことは、子供はとても素直だということとです。自分が接したように、そのまんま同じように自分に返って来ると感じました。自分が大きな声で挨拶をすれば、子どもたちも大きな声で挨拶をします。自分が手を抜けば、子供も手を抜く。小学校の先生をしている友だちにこんな事を聞きました。

「担任の先生の元気がよければ、子供達も元気がいい」それを実感した三日間でした。

今、子どもの画一化、一人っ子家庭の増加による人間関係の希薄化、コミュニケーション能力の低下などと言う話をよく聞きます。



こんなに、「先生、先生」と言っていて、いっぱい話しかけ、なんとか自己主張しようとしている子供達、助け合おうとしている子どもたちにそんな問題があるのだろうかと思いました。

今回のセミナーに参加して、子供達に大切なことを学ばせてもらったと感じています。子供は、きちんと大人を見ている。大人が子供に対して真剣に向き合っている

かどうか、きちんと子供もそれに応えようとしていることを。これから結婚して、子供を育てていかなければならない身として、いい勉強をさせてもらいました。このセミナーに参加できて本当に良かったです。

## 初めてのサマーセミナー

五年 小林 愛実

私は、このサマーセミナーを申し込んだ時から、すごく楽しみにしていました。サマーセミナーに行く日が来るとうれしくてドキドキわいわいしながら電車に乗って行きました。お昼がすぎるとやつとサンレイクに着きました。サンレイクの体育館に行き、坐禅についていろいろと大田先生に教えてもらいました。坐禅ということは欲を忘れ、心の迷いからさめて、正しい道を知ろうとするものなんだとわかりました。坐禅を初めてして、足をくんですわっている



だんだん足がいたくなりましたが、最後にはおちついてきました。最初は、坐禅していたくてあまりやりたくないと思っていました。でも、坐禅をやっていると少し気持ち落ちつききました。さびしい時やかなしい時は、坐禅をすると気持ち落ちつききました。「坐禅ってすごいなあー」と思いました。気持ちも落ちつくからです。

二日目、出雲大社参拝に行きました。私の家は出雲社なので、出雲大社でお願いしてきました。出雲大社に行つて、お金をなげたかっただけ、こぜいを持っていないかだったので、残念でした。なわには

お金がぎっしりつまっていました。

夜、キャンプファイヤーをしました。私は班長だったので、火を持ちました。火をつける時、すごくこわかったです。でも、火をつけてみると少しあったかくなりました。キャンプファイヤーの時に Rondobashi をしました。おおぜいでやったので、すごく楽しかったです。

二はく三日間すごく楽しい体験ができました。家ではできないカヌー体験などいろいろな事ができました。いろいろな人と友だちになれてうれいす。サマーセミナーに来てすごくよかったです。五観の傷もご飯を食べる前にみんなと一緒に言っていたので覚えていました。みんなでかい散したとき、また来年であえると思うけど、まだ一年先なので、少しさみしくなります。

来年もたくさんさんの友達を作つて仲良くしたいです。来年のサマーセミナーがまちきれないです。



立松

和平氏



山口会場(本庁主催) 平成18年5月26日

於：周南市・新南陽ふれあいセンター

# 禅をきく会

山口県宗務所教化主事  
荒木 玄修

平成十八年五月二十六日に周南市新南陽ふれあいセンターにて、宗務所主催、中国管区教化センター、山口県宗務所主管にて「禅をきく会」が県檀信徒大会と併せて開催されました。

当日は朝から雨で心配されましたが、ほぼ予定の八〇〇名弱の皆様に参加をいただきました。

午前の部は、ご本山の朝、振鈴―洗面版―止静―更点―暁鐘とつづく行持を再現して張りつめた空気の中での坐禅(イス坐禅)を檀信徒の皆様にも体験していただきました。松原統監老師より、鐘や太鼓の音量には細心の注意をするように、とのご指導を賜り前日の入念な打ち合わせの結果もあり、大変いい演出ができたと思います。又、鳴らし物の説明もわかりやすく端的に、かつ雰囲気壊さぬようにと、お願いしました。坐禅中は、統監老師によるイス坐禅の仕方や心得、呼吸法のご指導により静寂の中、意義深いひとときを味わいました。引き続き、開講式、吉川宗務所長、石田県護持会長の

挨拶をいただき午前の部は終了しました。

大雨の中昼食は、ホール内が飲食禁止のため、かなり窮屈になりましたが、皆様のご協力もあり混乱もなく運びましたこと本当にありがたく感謝致しております。

午後は立松和平氏に「道元禅師と生き方」と題して、七五〇回大遠忌記念行事の「道元の月」のエピソードや永平寺の宮崎禅師様との話を交えながらわかりやすく独特の口調で講演していただきました。閉会の時には雨も上がり、大気中の塵が落ちて町がきれいになるように、私たちも法雨によって心の垢がおとされ、すがすがしい気持ちで帰路につきました。

最後になりましたがこの会にご協力賜りました各教区長様はじめ、前日準備、雨の中駐車場整理、長時間の坐禅等、宗務所布教師、青少年教化員有志の諸師の皆様にご心より御礼申し上げます。

合掌



島根県第二宗務所護持会理事  
第一教区護持会会長  
小藤 洋也

生きていくことについて語る三人の作家に私は教えられることが多い。

一人は愛別離苦を体験し、霊と念を信じ男女の愛憎を小説にも書いていた天台宗のお坊さんとなった瀬戸内寂聴さん。一人は縄文時代からの日本人の死生観、現代科学と仏教について説かれ、日本人の魂はかつてのあの世への信仰を失うことで死を考えなくなり、努めて忘れて生きる現代社会について洞察する哲学者の梅原猛さん。そしてもう一人が五木寛之さんである。五木さんは法然、親鸞の他力本願をもとにした代表作「大河の一滴」があるが多くの人の道標となっている。

「宗教の宗教たるゆえんは、証明されないものを信ずるといふ一点にある」と説かれる。

「死んだらどこへ行くのか」の問いがある。死んだら骨肉は灰燼に帰し魂などはないものもない。地獄・極楽も現世のことで、生きている中こそ華で死んだらお仕舞いというのが今日の一般的な考え方ではないだろうかと思う。しかし、一方多くの人々が来世、あの世を信じようとし魂の存在することで救いを求めている。とりわけ弱肉

強食、修羅の巷と化した今日、故なくしてこの世を去った人のことを想うとき来世において！を祈らずにはおられない。五木さんの講演が鮮やかに浮かぶ。

「今日の凶悪犯罪の続出は私たちの感覚さえも麻痺させるほどである。わが国は世界文明国中でも自殺者数ナンバーワンである。自分の命の重さが感じられないから他人の生命も簡単に損なう。自殺は心の問題であり、自殺と犯罪は表裏一体である。生まれる縁、生かされていること、生命の尊さを説くのが仏教である。全国にコンビニが四万一〇〇〇店ある。お寺は七万四〇〇〇ヶ寺もある。日本は紛れもなく仏教国といえるであろうにこの現実はどうしたことだろうか。「草木国土悉皆成仏」「一切衆生悉有仏性」蚊一匹も殺さないという生命の感性と、四十九日後再度生き返るといふ輪廻転生を信じ凶悪犯罪のないブータン王国」と語られた。現代日本仏教への強烈なパンチのように思えた。宗教とは現実とは反対の「あの世」のことであると説かれた五木さん、わが宗門は現世、南無釈迦牟尼仏と唱える。探求すべきことを教えられた禅をきく会であった。



五木

寛之氏



島根会場(管区主催) 平成18年11月14日

於：松江市・島根県民会館

# センター布教協議会・講習会



島根県第一宗務所前教化主事 多田利昭

平成十八年九月六日～七日  
於 大田市 国民宿舎「さんべ荘」



今年度の布教協議会・講習会は、島根県第一宗務所が主管となり、九月六日（水）から七日（木）の二日間、大田市三瓶温泉の国民宿舎「さんべ荘」を会場に七十五名の参加者が集って盛大に開催することができました。

知っていても、そのお人柄や功績については知る人ははなはだ少ないのではないかと思います。高祖道元禅師のもと、もし徹通義介禅師がおられなかったならば、少なくとも太祖瑩山禅師は誕生しなかったのではないかと。道元禅師の高弟として、そのお人柄や教えを正しく受け継ぎ、永平寺第三代住持となり、やがて永平寺中興とよばれ、加賀に大乗寺を開いてその開山となられたお方なのです。そし



て瑩山禅師を育てた高僧であり、この徹通義介禅師こそ、道元禅師と瑩山禅師を結ぶ道樞に位置しているお方であることを学ばせていただきました。

この他、当宗務所の杉原良信師から「アイヌ差別・ハガキ事件」について、その背景に存在する社会の状況について学びました。また、二日目の最後には、中国管区教化センター布教師の広島県宗光寺住職垣井龍頭老師と山口県安養寺住職渡辺勝人老師から各三十分布教実演をしていただき、まさにプロとしての老練な話術と内容あるお話で、一同深い感銘を受け、布教の真髄を学ばせていただきました。当日は何かと至らぬことも多々あったことと思いますが、講師ご老師をはじめ松原徹心統監老師・センター役員の方には大変お世話になり、衷心より厚くお礼を申し上げて報告とさせていただきます。



# 青少年教化指導者研修会



平成十八年六月二十七日～二十八日  
於 大田市 スカイホテル大田  
島根県 円通寺徒弟 大谷弘導



六月二十七日・二十八日と二日間、大田市の「スカイホテル大田」を会場にして「青少年教化指導者研修会」が開催されました。

参加者が約四十五名ぐらいたったと思いますが、第一日目は、SVA事務局広報課の大菅俊幸氏が「ボランティアの現場から」と題し講義があり、有馬実成師の歩みを元に話され最後に大事な事は、「宗教者の一人一人が時代の苦悩というものを、自分の課題としてどう受け止めるのか、それが問われている」という言葉に考えさせられました。また、「防災寺子屋」の実践企画資料が分かりやすくまとめであり、参考になると思いました。

引き続き、近畿管区教化センター主監の鈴木顕道老師の「手話との出会い」の講義があり、私は手話は初めての講義で、基本の指導

を聞いたりしたのですが、実技指導の時手話で問題を出されたり、一緒に自己紹介を手話でやることになったのですが、大変難しく、大変でした。途中「自分の思った様にやってください」と言われ救われたようにホッとしました。でも良い体験だったと思っております。

二日目は、島根県第一宗務所人權擁護推進主事・杉原良信老師による人權学習があり、「主な差別事件の特徴とその背景に存在する社会の状況」と題した指導を受けました。差別事件の中の「連続・大量差別はがき事件」をあげ、事件の概要・実態・被害者の苦しみ・取り組み・経緯等順を追って非常にわかりやすく話されました。特に考えさせられたことは、ネット書き込みの凄まじい実態と、無責任な偏見のばらまきに、怒りを覚えました。

引き続き、最後の指導で、地元の中中央公民館館長の岩谷五朗氏による、実技指導があり室内のゲームのやり方、キャンプファイヤーの仕方を学びました。ゲームは実技が出来、久しぶりに楽しく出来ました。惜しく思ったのはキャンプファイヤーの実技を体験出来なかったことでした。



全体として、有意義な研修会でした。ありがとうございました。



# 曹洞宗婦人会中国管区研修会

山口県海潮寺婦人会 伊藤シゲ子

平成十八年十月十一日〜十二日  
於 萩市 萩本陣

山折

哲雄氏



松田

輝夫氏



## 研修会に参加して

平成十八年十月十一日、十二日に開催されました管区研修会は、地元萩市の「萩本陣」が会場でしたので、是非参加しようとお寺婦人会の会員連れ立ち参加致しました。当日は小春日和の穏やかな天候で、会場からは萩の町や海が一望でき、心まで晴れやかになりました。中国五県から貸切バスなどで総勢三百名が参加され会場は熱気に溢れていました。厳かな開会式に始まり、身の引き締まる思いでした。第一日は先ず、前国際日本文化センター所長の山折哲雄先生のご講演「日本人のこころ」を拝聴致しました。先生のお住まいがあります京都の裏路地やお寺の佇まいを例にあげて、日本人の感性や、私たちが無意識のうちに持っている宗教心についてのお話でした。日本人として遺傳的に持っている仏教的な心は絶やすこと

なく伝えていかなければと思いましたが、

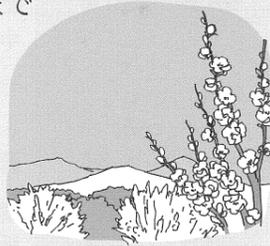
次に、曹洞宗婦人会の活動について、本部の萩野会長様が報告され、続いてSVAからボランティア活動の報告がありました。また山口県宗務所婦人会の役員様方によるコーラスの発表があり、二部合唱の素敵なハーモニーと懐かしい唱歌の歌声に心身共に癒されました。二日目は、朝の椅子坐禅から始まり、早朝から心静かに坐ることは大変貴重な体験でした。また吉田松陰研究家で萩市在住の松田輝夫先生による「吉田松陰と仏教」と題するご講演がありました。松蔭先生を育んだご両親のこと、家族の人々の生き方や家庭生活のあり方など、今の私たちに考えさせられることがたくさんありました。親として、また責任ある家庭の一員として我が身をふりかえるよい機会を与えて頂いた思いでした。山本昌男人権主宰様のお話は「金子みすゞの心に学ぶ」と題し

てとても分かりやすいお話で心に沁みました。どの行事も大変有意義で本当に充実した研修会と感じました。有り難うございました。



## 青少年教化指導者研修会

- 日時 平成19年6月18日(月)正午受付 13時開講〜19日(火)正午まで
- 会場 岡山県岡山市 アークホテル
- 講師 未定
- 参加費 14,000円
- 対象 青少年教化員・青少年教化を志す宗侶
- 申し込み先 各宗務所
- お問い合わせ 教化センター



## センター布教協議会・講習会

- 日時 平成19年9月6日(木)正午受付 13時開講〜7日(金)正午まで
- 会場 山口県山口市 湯田温泉「松政」
- 講師 未定
- 参加費 12,000円
- 対象 宗務所役員・布教師等 ※尚、7日午後より布教師特設検定会を予定
- 申し込み先 各宗務所
- お問い合わせ 教化センター



## センター布教師一覧

岡山	1教区9番	東林寺	越海暢芳	〒702-8005 岡山市江崎725-5	☎(086)276-5582
広島	3教区58番	宗光寺	垣井龍顕	〒723-0062 三原市本町3-11-1	☎(0848)62-4719
山口	2教区37番	安養寺	渡辺勝人	〒747-0825 防府市新田古前1246	☎(0835)22-1865
鳥取	7教区151番	安国寺	森下慈孝	〒683-0831 米子市寺町50	☎(0859)22-3836
島根一	3教区258番	宝福寺	森山容光	〒699-4431 江津市桜江町長谷411	☎(0855)92-1396
島根二	9教区187番	養善寺	西古孝道	〒699-1343 雲南市木次町湯村900	☎(0854)48-0371

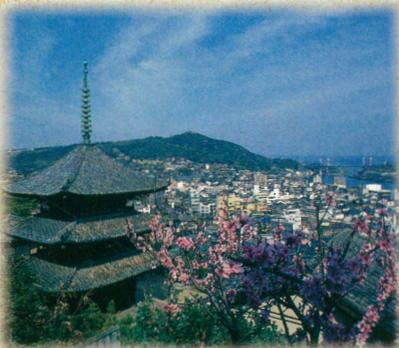
## ■平成19年度事業計画

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

月	日	行 事	備 考
4	2(月) 16(月)～17(火)	センター運営・企画委員会 全国教化センター連絡協議会 中国管区教化センター報第23号発刊	広島市 ホテルニューヒロデン 宗務庁
5	未定 24(木)～25(金) 29(火)～30(水)	センター布教師協議会 人権三者協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会	広島市 岡山県宗務所管内 益田市 妙義寺
6	未定 18(月)～19(火)	集中伝道 青少年教化指導者研修会	岡山県岡山市 アークホテル
7	5(木)～6(金) 25(水)～27(金)	管区役職員人権学習会 第23回子ども禅インサマーセミナー	岡山県宗務所管内 山口県柳井市 柳井グランドホテル
9	6(木)～7(金) 7(金)	センター布教協議会・講習会 布教師特設検定会(中国・四国・九州)	山口県湯田温泉「松政」
10	4(木)～5(金) 未定	曹洞宗婦人会中国管区研修会 集中伝道	益田市 グラントワ
11	7(水) 未定	センター運営・企画委員会 全国教化センター連絡協議会	広島市
1	未定	中国管区教化センター報第24号編集会議	
2	未定 26(火) 未定	島根県布教講習会 禅をきく会〔本庁主催〕 禅をきく会〔管区主催〕	島根県第1宗務所管内 広島県宗務所管内 島根県第1宗務所管内
4月～9月(第1・3土) 11月14日(水) 2月7日(木)～8日(金)		中国新聞文化講座「禅」 宗門護持会管区集会 布教委員長会議	広島市 クレドビル教室 岡山県宗務所管内 岡山県宗務所管内

## ■センター役職員

統 監	松原 徹心	光 善 寺	〒755-0035 山口県宇部市西琴芝2-1-46	☎(0836)21-5465
主 監	村上 邦雄	摩訶衍寺	〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338	☎(0848)38-0656
賛 事	藏 重 宏 昭	玄 濟 寺 内	〒753-0811 山口県山口市吉敷1584	☎(083)922-4560
賛 事	檀 上 一 祥	吉 祥 寺 内	〒722-2416 広島県尾道市瀬戸田町林686	☎(0845)27-0719



(天寧寺三重塔より尾道を望む)

● 「給食費を払っているのに、なぜ、預きまを言わなければいけないのですか。」とある父兄の言葉として取り上げられていました。食育という言葉が定着しつつあります。カロリー数や朝食を必ず頂くを説くより、「食」を頂く意味を教えていくべきだと思いません。

● 権利、義務を主張するのではなく、常に思いやりの心があれば、自ずと口から「頂きませう・ご馳走様」がでるのでないでしょうか。

● 私達はお蔭様で生かされているのです。肩肘張らずに生きていきたいものです。(主監)

● 少子化が進む昨今、サマナーセミナーの参加者も減少傾向にあります。常に前向きに、皆様のお役に立てるよう考えながら、企画・開催致しております。是非共、多くのご参加を頂きます様、役員一同、願っております。(賛事)

## 編集後記